

2016熊本研修会 Report

1.熊本地震について

熊本地震は、2016年(平成28年)4月14日21時26分に熊本県と大分県で相次いで発生した地震である。

最も大きい**震度7を観測する地震が2回**、4月14日夜および4月16日未明に発生したほか、最大震度が6強の地震が2回、6弱の地震が3回発生した。

この14日の地震は、北北西-南南東方向に張力軸を持つ、この地方で一般的な「**右横ずれ断層**」型であり、北北東-南南西方向に伸びる震源断層を持つと推定されている。地震調査委員会は、この地震および翌日のMj6.4の地震は、**日奈久断層帯**(約81km)の北端部に当たる、高野-白旗区間(約16km)の活動によるものとの見解を発表している。

人的被害

死傷者等		地域別の死者(直接死) ^[73]	
死者(合計):	131 人	地域	人数
直接死:	50 人	益城町	20
関連死:	76 人	南阿蘇村	16
豪雨被害関連死*1:	5 人	西原村	5
行方不明者:	0人	熊本市	4
負傷者:	2,337 人	嘉島町	3
避難者数:	183,882 人*2	御船町	1
被害総額:	最大4.6兆円*3	八代市	1
2016年9月30日現在 ^{[73][74]}		合計	50
		2016年8月15日現在	

※ウィキペディアより

2.通潤橋

水を通す石橋「通潤橋」

地震の影響で、放水は中止、立ち入りも禁止であった。

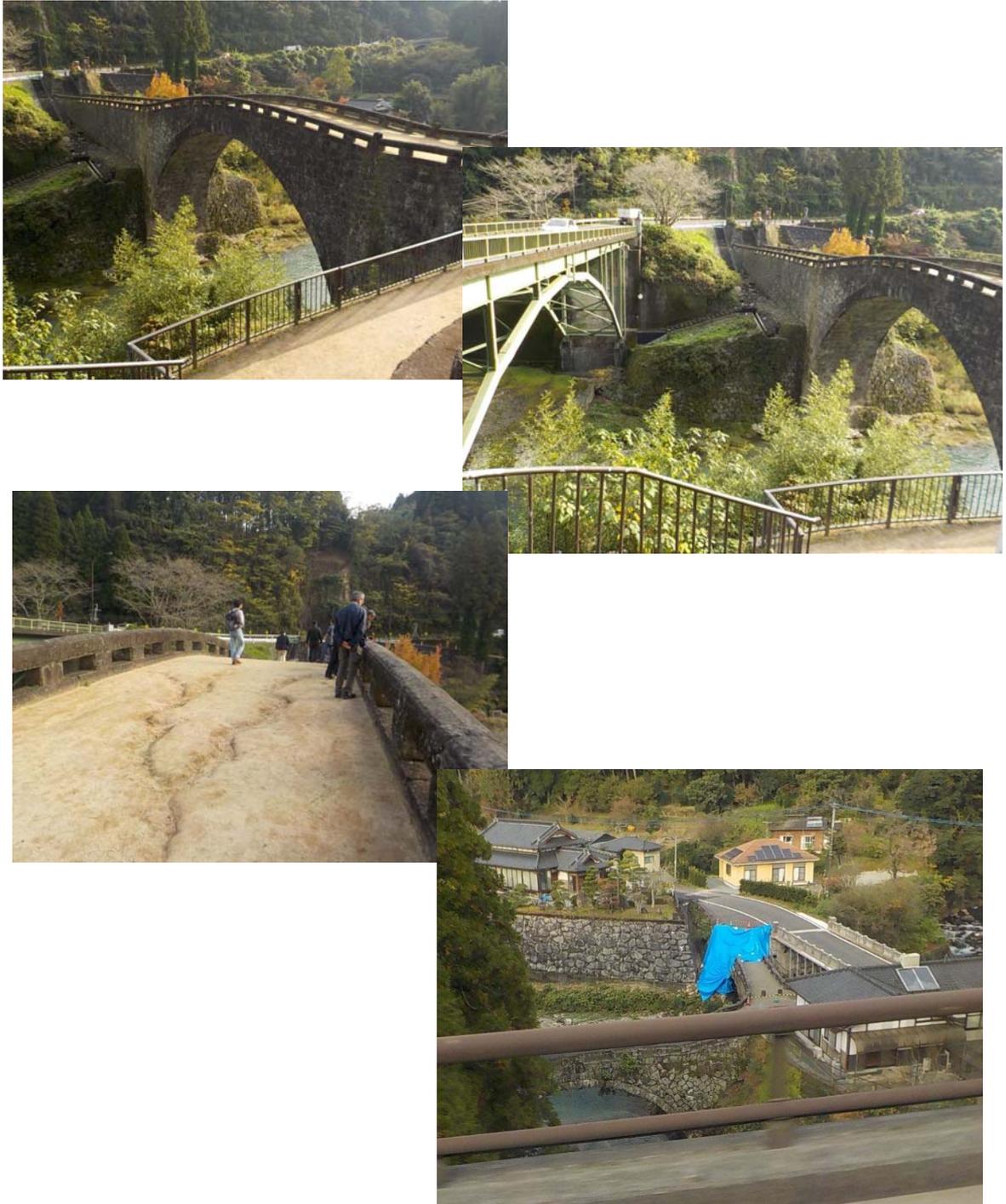


放水時の参考写真

2016熊本研修会 Report

3. 霊台橋(れいたいきょう)

霊台橋は熊本県美里町の緑川に江戸時代後期に架けられた石橋
国の重要文化財に指定されている



落橋している。(車窓から撮影)

2016熊本研修会 Report

4.熊本城

熊本城は、地震の影響で城壁などが崩壊し、立入り禁止となっている。ボランティアの方々にガイドをしていただき、説明を受けた。

なお、宇土櫓などの現存する櫓・城門・堀13棟は国の重要文化財に指定されている。また、城跡は「熊本城跡」として国の特別史跡に指定されている。



多くの落石が見られる



城壁も崩壊している。写真中央付近



ボランティアガイドさんのパンフレットより

2016熊本研修会 Report

5.益城町

熊本地震で震度7の激震に2度見舞われた熊本県益城(ましき)



住宅地の斜面崩壊

橋梁上部工の移動



家屋の倒壊



仮設ベットの展示



←仮設住宅

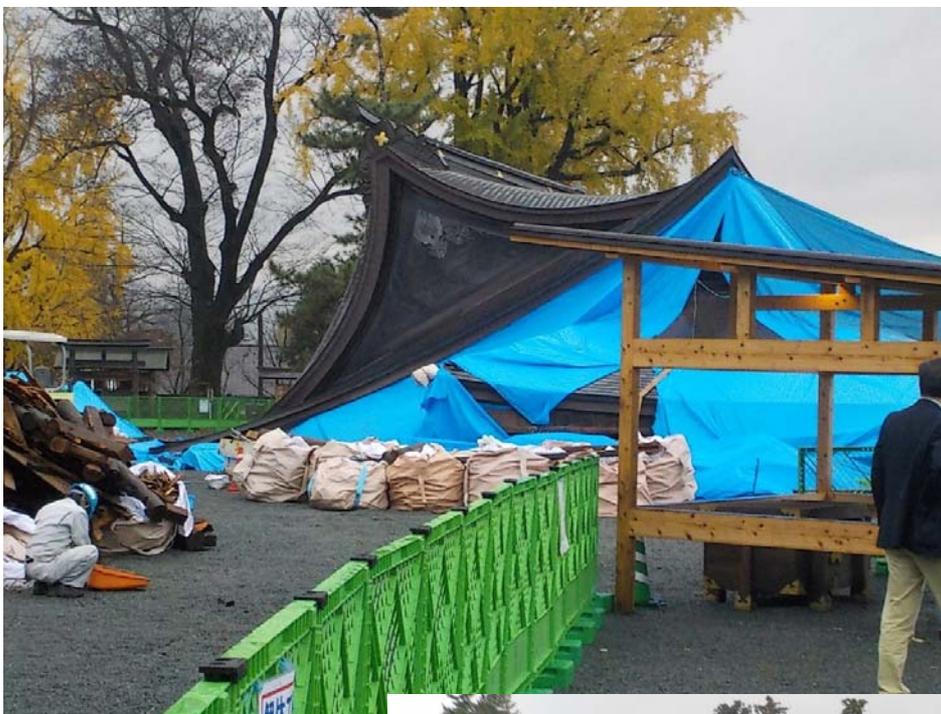
2016熊本研修会 Report

6.阿蘇神社

阿蘇神社を含め、多くの重要文化財も被災した。
7ヶ月経った今も、手つかずの状態であり
復旧には相当時間がかかりそうである。



地震前の楼門(重要文化財)



2016熊本研修会 Report

7.鼻ぐり(はなぐり)

馬場楠井手の鼻ぐりとは

概要

馬場楠井手の鼻ぐりは、加藤清正公の肥後統治時代に築造されたと伝えられており、岩山を部分的にくりぬいて作られた特異な構造物です。この構造は、水を利用して溜まった土砂を排出させる仕組みで、岩山をくりぬいた穴の形が牛の鼻輪を通す穴（もしくは鼻輪本体）に似ているところが「鼻ぐり」という名称の由来とされています。



構造の目的・機能

鼻ぐりがある区間（曲手～辛川）は、

- ①厚く硬い岩盤が続く所であったため、掘削するには多くの時間と労働力が必要であった。
- ②地上から底までの深さが約20mにもなるため、溜まった土砂を人力で排出することが困難であった。

この2つの問題を解決したのが「鼻ぐり」です。

岩盤掘削時に一部を壁のように残し、その下辺に半円型の高さ約2mの穴をくりぬいてトンネル状にすることで、掘削する岩量を減らすことができ、作業時間を短縮することが可能となりました。また、その穴のあいた壁にぶつかった水流が、渦とともに土砂を巻き上げながら、次の穴へはき出されることにより、川底に土砂が溜まらない構造にしたと考えられています。

